

# 意味論解釈に基づく準実在論

石上隆達 (Ryutatsu ISHIGAMI)

北海道大学大学院理学院 修士課程 2年

科学的対象が実在するかどうかを科学の合理性の拠り所とする科学的実在論の議論の中で、科学者を代表する F.Suppe は、理論の意味論解釈をベースにした準実在論 (quasi-realism) という実在論寄りの論を展開している。この論は、彼自身の航空工学における科学者としての経験が元になっており、他の哲学的な議論以上に、科学者一般の日常的な行為がより反映された議論構成となっている。

では、Suppe の主張するこの準実在論的立場ではどのように実際の科学に適用されるのか。意味論解釈が要求する理論のモデルと現象とのマッピング関係や、DaCosta らが展開する集合論なども踏まえつつ、Suppe の議論の有効性を考察してゆく。そしてまた、Suppe 自身が積極的に考察した、気候シミュレーションへの適応と合わせて、準実在論的解釈のより広い科学の分野への適用可能性も展望することを目指す。